

本サービスにおける著作権および一切の権利はアイティメディア株式会社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスの出力結果を無断で複写・複製・転載・転用・頒布等を行うことは、法律で認められた場合を除き禁じます。

松田雅央の時事日想:

チェルノブイリ原発事故から25年――反原発デモを取材する

<http://bizmakoto.jp/makoto/articles/1104/29/news001.html>

チェルノブイリ原発事故から25年が経過した。事故の起きた4月26日は反原発運動の記念日となり、ドイツでは毎年、各地でデモやイベントが開かれている。今回の時事日想は、ドイツ南西部にあるネッカーウエストハイム原発で行われたデモの様子をレポートする。

2011年04月29日 08時00分 更新

[松田雅央, Business Media 誠]

著者プロフィール: 松田雅央(まつだまさひろ)

ドイツ・カールスルーエ市在住ジャーナリスト。東京都立大学工学研究科大学院修了後、1995年渡独。ドイツ及び欧州の環境活動やまちづくりをテーマに、執筆、講演、研究調査、視察コーディネートを行う。記事連載「EUレポート(日本経済研究所/月報)」、「環境・エネルギー先端レポート(ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社/月次ニュースレター)」、著書に「[環境先進国ドイツの今](#)」、「[ドイツ・人が主役のまちづくり](#)」など。ドイツ・ジャーナリスト協会(DJV)会員。公式サイト:「[ドイツ環境情報のページ](#)」

原子力開発史上最悪となるチェルノブイリ原発事故から25年が経過した。事故の起きた4月26日は反原発運動の記念日となり、毎年ドイツ各地でデモやイベントが開催されている(今年はイースター休日の25日に開催)。

ドイツの反原発運動はどのようなものなのか。ドイツ南西部にあるネッカーウエストハイム原発で行われたデモと集会の様子をレポートする。

ネッカーウエストハイム原子力発電所(Kernkraftwerk Neckarwestheim)

所在地: ドイツ、バーデン・ヴュルテンベルク州

運営事業者: EnBW原子力発電有限会社

職員数: 約800人

	原子炉1号機	原子炉2号機
建設開始	1972年	1982年
営業運転開始	1976年12月	1989年4月
原子炉の種類	加圧水型	加圧水型

出力	84万kW	140万kW
営業運転停止	2011年3月16日(一時停止)	2036年(予定)
発電量(2010年)	22億kWh	109億kWh
CO2排出削減効果*(2010年)	210万トン	1050万トン
設備稼働率(2010年)	62.9%	89.8%

※運営事業者発表の数値。石炭・褐炭発電と比較して。(出典:[EnBW原子力発電有限会社のWebサイト](#))



ネッカーウェストハイム原子力発電所の原子炉1号機(左)、排気塔(左)、原子炉2号機(中)、冷却塔(右)

8000人のデモ行進

当日は天候に恵まれ、主催者発表によれば約8000人の市民が最寄のキルヒハイム駅前に集まった。ここからネッカーウェストハイム原発まで、ブドウ畑と菜の花畑を両脇に見ながら2キロほどの道のりだ。

ドイツでも暴力を伴うデモがあることは否定できないが、近年の反原発デモは平和的に行われている。雰囲気は「お祭り」と書くのがピッタリだろう。ベビーカーを押す家族連れから高齢者のグループまで、性別・年齢を問わない幅広い市民層の参加が特徴と言える。警察はパトカーで先導することと、所々の交差点での交通整理だけが仕事。原発敷地内にも特別警戒の様子はない。

主催団体のひとつ、環境保護団体BUNDバーデン・ビュルテンベルク州のフリース事務局長によれば、平和行動と偏狭な思想にとらわれない反原発運動がモットーだ。



家族で参加。「子供たちの将来のために参加しています」パレデスさん一家

「チェルノブイリ記念日にあわせたデモとイベントは国内12カ所で行われていますが、最初に始まったのがこのネッカーウェストハイム原発デモです。初期のデモは警察の放水車が出動する激しいものでしたが、近年は過激なグループを排除し、多様な考えの市民が参加できるよう心がけています」

例えば原発推進の立場をとる与党CDU(キリスト教民主同盟)支持者であっても、「他の政策は支持するが原発には反対」ならば気軽に参加できる。



デモ行進の先頭。横断幕には「1986チェルノブイリ、2011フクシマ／原発を止める!」と書かれている(左)、壮観8000人。この日、全国で開催されたデモやイベントの参加者は計12万人(右)

ブドウの産地

ネッカーウェストハイム原発のあるキルヒハイムは人口5100人の小さな農村である。原発の名前に付く「ネッカー」は近くを流れるネッカー川のことで、川沿いは温暖な気候を生かしたブドウ栽培が盛んだ。過酷事故が起きて放射性物質が漏れればこの一帯のブドウ畑は全滅してしまう。福島第1原発周辺に広がるであろう田んぼや畑のイメージと重なり、なんともいたたまれない気持ちになる。

ほとんどのデモ参加者は列車で30分離れた州都シュトゥットガルト(人口約60万)とその周辺から来ていたようだ。原発からシュトゥットガルトまで直線にして約30キロ。福島第1原発と福島市の距離よりはるかに近く、市民の危機意識はたいへん強い。

一方、地元住民の意識はメディアの報道を総合すると「無関心」が適当だ。少なくとも反原発の積極的な動きはない。村議会の議席数内訳は地域政党WGK:6、CDU:4、無所属:3、SPD(ドイツ社会民主党):1。緑の党(環境政党)の議席はなく、反原発に力を入れるSPDの議席数が少ないことから世論の傾向がうかがえる。



ネッカー川沿いの丘陵に広がるブドウ畑(左)、満開の菜の花をバックに。旗の「太陽マーク」は反原発の統一シンボル。「原発からソーラーへ(再生可能エネルギーの象徴として)」のメッセージ(右)

チェルノブイリとフクシマ

原発まで数百メートルを残しデモ行進はストップ。目の前の原っぱには木で作られた粗末な十字架が立ち、拡声器からロシア語のアナウンスとドイツ語訳が流れてくる。

「同志諸君、チェルノブイリ発電所で放射能漏れが発生しました。非常事態を宣言します。住民はすみやかに避難を始めて下さい……」

25年前、チェルノブイリで実際に流された避難放送の録音だ。十字架には消火活動で命を落とした作業員の名前が刻まれている。筆者を含め、デモ行進を取材する20人余りの報道関係者が「最高の絵」を撮ろうとせわしなく動き回る。主催者があらかじめ用意したこの演出を「さすが」と思うか「ずる賢い」ととるかは人それぞれだが、長年の経験に裏打ちされた「したたかさ」で最大のPR効果を発揮したことは間違いない。



チェルノブイリ犠牲者の名を刻んだ十字架を前にデモ行進は一時停止(左)、原子炉1号機と排気塔(右)

デモ行進終点となる原発前の駐車場には飲料品と軽食を売るテントが立ち、トラックの荷台には屋外ステージが用意されていた。頃合いを見計らって反原発バンドの演奏が始まり、主催者のあいさつ、反原発運動に参加する医師のスピーチ、ウクライナの市民団体が活動するロシア人のスピーチが続いた。

ステージ後ろの横断幕にも「1986チェルノブイリ、2011フクシマ／原発を止めろ!」と書かれている。フクシマの名がこういう形で有名になろうとは、3月11日以前は誰にも想像できなかった。これからチェルノブイリ記念日が来るたび、「フクシマ」の名が叫ばれるのかと思うと気が重い。

何人かにチェルノブイリとフクシマがドイツに与えた影響を聞いてみた。ここでは代表として、先に登場したBUNDフリース事務局長のコメントを紹介する。

「大きく分けて2つの側面があると思います。放射能汚染の直接被害とその恐怖という点で、チェルノブイリとフクシマは比較になりません。しかしながら原子力政策に与えた衝撃はフクシマが勝ります。これまでドイツの原発(軽水炉)はチェルノブイリ型の原発(黒鉛炉)と違い安全とされてきましたが、その前提が覆されたからです。フクシマとドイツの安全対策は同レベルとはいえ、フクシマで起きた事故はドイツでも起こり得ます。技術先進国で過酷事故が起きたことによって、ドイツでも原発の安全神話は吹き飛びました」

フクシマが世界をどう変えるかは、まだはっきりしない。またフクシマの名がこれからどう扱われるかも不明だが、日本政府のまづい対応を見る限り、残念ながらチェルノブイリ同様「原発のネガティブな象徴」に向かって突き進んでいるようだ。

「不十分・不透明な情報開示」「責任所在のあいまいさ」「放射線安全基準の甘さ」といった指摘は嫌というほどされているのだが……。今からでも遅くない。次世代のため真に大切な決断を下す政府へと、大胆な変身を遂げることを願わずにいられない。



ウクライナで青少年を対象とした反原発活動に携わるレナ・ダマニスカヤさんのスピーチ(左)、日本語のメッセージ。BUNDの用意したプラカードに思い思いのメッセージを書くことができる(右)

関連記事

[復興スマートジャパン](#)



[海外でのイメージは？ 原発事故を起こした“フクシマ”](#)

原発事故の発生から、1カ月が経とうとしている。海外メディアでも冷静な報道が目立ってきたが、市民の間では「フクシマ=危険」というネガティブイメージは根強い。こうしたイメージを払拭するにはどのようにすればいいのか。

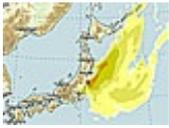


[放射性物質の“流れ”は公表できません——気象庁の見解は世界の“逆流”](#)

福島第1原発から放出された放射性物質はどのように拡散しているのだろうか。ドイツでは「放射性物質拡散



シミュレーション」を公表しているが、日本の気象庁は“国民向け”には発表していない。その理由を気象庁に聞いた。



[放射性物質はどのように拡散するのかー情報開示に消極的な気象庁](#)

福島第1原発から大気中に放出された放射性物質は大気中をどのように拡散していくのか。放射性物質の拡散を予測した気象データがあるが、このことを知っている人は少ない。なぜなら日本の気象庁が予測データを積極的に開示しないからだ。



[福島第一原発の復旧バイトに申し込んでみた](#)

東日本大震災での津波による事故で、危機的な状況となっている福島第一原発。復旧のための作業員を募集していたので、応募してみた。

Copyright © 2012 ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

